

第3回総会及び講演会 来る10月17日開催



第2回総会であいさつをする豊田会長

CONTENTS

国立大学法人化スタート	2
第2回総会報告	3
全学同窓会の動き	
■これまでの経緯	4
■委員会の活動	5
■部局同窓会・同窓会支部の動き	6

ニュース

■東京フォーラム開催	8
■産学官連携推進本部との共催講演会	9
■地下鉄「名古屋大学」駅、誕生	10
■名大男声合唱団創立50周年記念演奏会	11
■名大ヨット部の再興	11
■大学の新しい建物紹介	12

国立大学法人化スタート

同窓の皆様へ —— 新任のごあいさつ ——

名古屋大学総長 平野 眞一



名古屋大学への日頃のご支援に厚く御礼申し上げます。名古屋大学はこの4月1日から国立大学法人として新たな第1歩を踏み出しました。この大きな変換の時に、総長に就任することの責任をととても重く受け止めており、身の引き締まる思いです。

名古屋大学は、開学以来60年ほどの比較的短い歴史の中で、多くの非常に優れた研究成果を生み出し社会に貢献する人材を育ててきました。これは、名古屋大学の誇るべき自由闊達な風土の中から卒業生をはじめ名古屋大学関係者の皆様のご努力によって生まれてきたものであります。そのような輝かしい成果を上げてきたのは、知の創造の源が優れた教育・研究者群の存在と自由な発想の奨励の重要性にあると深く信じて邁進してきたことにあると考えます。

大学は良い人材を育てることと、知の創造の拠点となることが基本的使命であると考えており、本学では「名古屋大学学術憲章」で、本務として「研究と教育の創造的な活動を通じて、世界屈指の知の創成と将来を担う勇気ある知識人を育成することによって社会に貢献する。」と掲げております。このような基本目標のもとに、国立大学法人名古屋大学は、従来以上に、21世紀の学問の発展、科学技術の革新、優れた人材の輩出、高度医療などにおいて社会に貢献できる拠点大学としての活動を進めてまいりたいと存じます。

大学における知の源は紛れも無く個々の構成員であります。名古屋大学は、幸い伝統に培われた知の遺産を引き継ぎつつ、多様な輝きを持った知の源を豊富に内蔵しております。知の継承と次世代への文化の発展を支えるためには、異分野間での協力関係の強化が必要であります。言うまでも無く、学術・文化は「人」が創造するものであり、「学」

はまさに「HUMANITY」そのものであります。「学」の発展のためには、人文科学、社会科学、自然科学の力強い連携のもとに、総合大学としての特長を生かし、人間性と科学の調和的発展を視野にいたした高度な研究と教育を行います。

さらに、「知の拠点」形成と継承・発展のためには、独創的な発想を持つことが出来る若手の育成が不可欠であります。国内にとどまらず国際的に活躍できる人材を育成する環境作りに努めます。とともに、現在、国立大学のトップクラスに位置する1200人以上の留学生が学ぶ名古屋大学を、真の国際的な教育・研究拠点にするよう努めてまいります。

これまで以上に社会と大学の連携強化が望まれている時期に、皆様のご尽力によって、名古屋大学全学同窓会が平成14年10月27日に設立されましたことは、大学関係者にとって大いなる喜びであり、社会と名古屋大学の相互の発展に尽くす意を強くするものであります。全学同窓会が「社会と大学を結ぶ必須の組織」として活躍してくださることを御願いたします。

第2回総会報告

名古屋大学全学同窓会幹事会、評議員会、講演会及び第2回総会・懇親会が、平成15年11月2日（日）に開催されました。

名古屋大学全学同窓会（NUAL=ニューアル（Nagoya University Alumni Association））は、国立大学の法人化に向けて、大学と社会の連携がますます重要になることから、平成14年10月27日に設立されたものです。また、本学の同窓会は、卒業生だけでなく本学関係者すべてを構成員とする新しいタイプの同窓会で、大学と同窓会が核となり、国内だけでなく国際的にも貢献することを目的としています。

幹事会では、同窓会の平成14年度の活動報告及び決算報告、平成15年度の活動計画及び予算案について審議され、引き続き行われた評議員会では、これらに加え、役員交代についても審議され、承認されました。

続いて、講演会が、シンポジオンホールにおいて行われ、丹羽宇一郎副会長（伊藤忠商事株式会社取締役社長）が「日本経済再生と産・学・官連携」と題して講演をされました。

講演の中で、丹羽副会長は、「日本経済の再生に重要な役割を占めるのは、先端技術の応用と加工です。先端技術はそれがいくら優れていても、実態経済に適切な形で応用されないと利益を生みません。そのため応用研究は非常に重要であり、これには産学連携が必要となります。産学連携は、単なる社会貢献にとどまらず、企業にも大学にも実際に利益をもたらすものとなるべきです」と、産学連携の重要性について述べられました。

その後、総会・懇親会が、グリーンサロン東山において行われ、岡田邦彦副会長（株式会社松坂屋取締役社長）による開会の辞、豊田会長及び松尾稔総長によるあいさつ、伊藤義人代表幹事長が同会の活動報告を行いました。続いて、柴田昌治副会長（日本ガイシ株式会社代表取締役会長）の発声により乾杯が行われ、終始和やかな雰囲気の中で歓談がもたれました。最後に、斉藤英彦副会長（国立名古屋病院長）による閉会のあいさつがあり、同会は盛況のうちに終了しました。
（名大トピックスより抜粋）

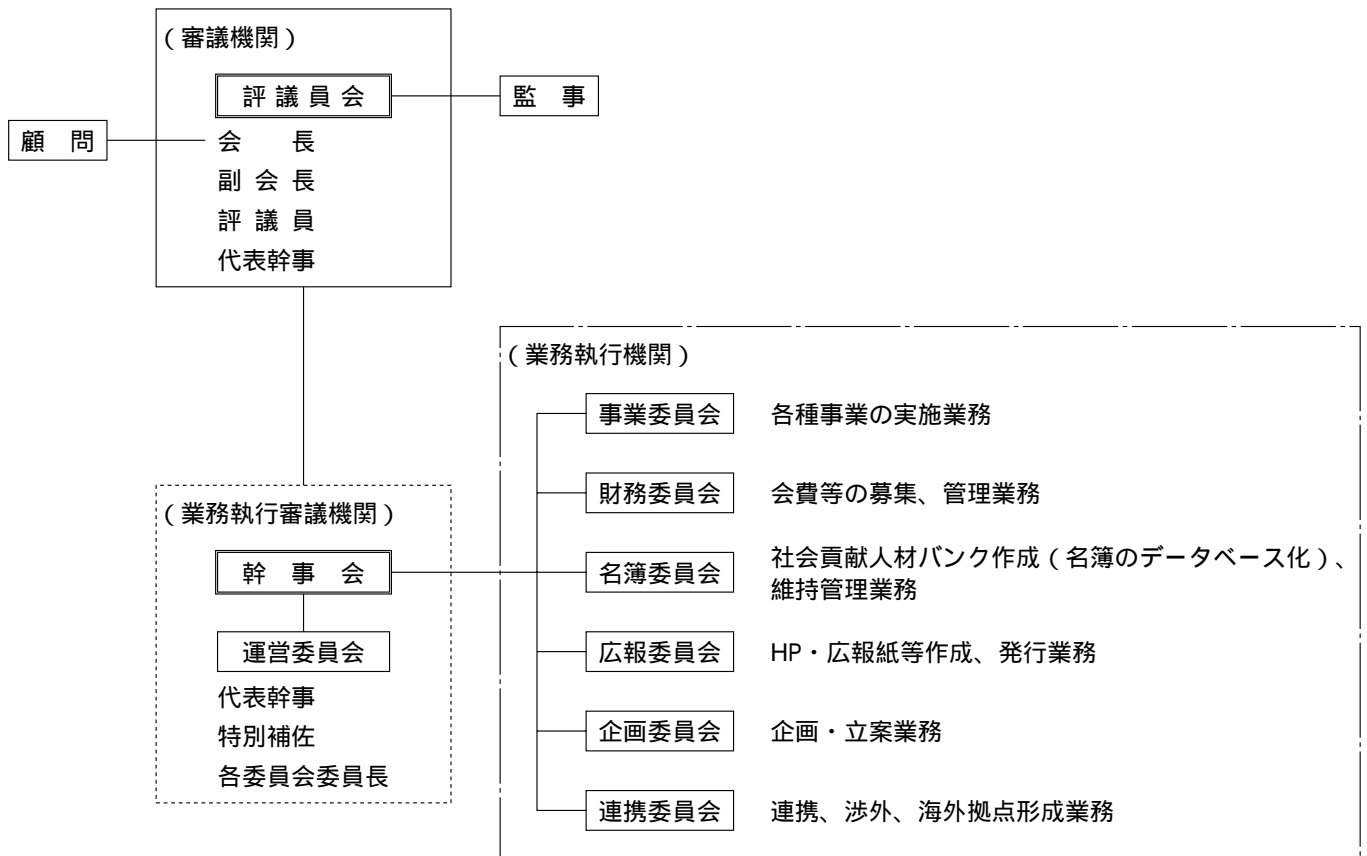


全学同窓会の動き

■これまでの経緯

1. 設立準備委員会設置前
 - 平成13年7月 部局同窓会の意見を集約
設立構想の企画立案
 - 平成13年9月18日 総長が評議会で大学全学の同窓会設立の検討開始を提案
2. 設立準備委員会設置後
 - 平成13年10月10日 第1回設立準備委員会
総長から委員長の指名
委員会幹事の決定
全学同窓会（仮称）の設立について意見交換
 - 平成13年11月7日 第2回設立準備委員会
全学同窓会（仮称）の設立に合意
副委員長の決定
設立準備委員会から設立委員会に移行を了承
3. 設立委員会設置後
 - 平成13年12月21日 第1回設立委員会開催
委員長等委員会役員・構想の確認
事業・財務・名簿の各小委員会の設置、委員長の決定
設立の理念、会則案の大枠了承
全学同窓会の名称「名古屋大学全学同窓会」を決定
プレ発会式の開催を了承
役員候補の検討開始
 - 平成14年1月29日 第2回設立委員会開催
全学同窓会の英文名称「Nagoya University Alumni Association」を決定
 - 平成14年2月22日 第3回設立委員会開催
全学同窓会の愛称「NUAL（ニューアル）」を決定
 - 平成14年3月5日 プレ発会式実施
 - 平成14年4月 会長、副会長候補者決定
 - 平成14年5月 顧問、評議員、監事、幹事候補者決定
 - 平成14年6月21日 設立総会開催日決定
 - 平成14年6月 社会貢献人材バンクの作成（全学同窓会名簿のデータベース化）開始
 - 平成14年9月 設立基金募集開始
4. 設立総会
 - 平成14年10月27日 名古屋大学全学同窓会設立総会開催（総会・記念講演会・祝賀会）
5. 設立総会后
 - 平成15年3月26日 関東支部設立総会開催
 - 平成15年11月2日 第2回名古屋大学全学同窓会総会開催
 - 平成15年12月1日 名古屋大学オープンフォーラム後援
 - 平成15年12月17日 名古屋大学東京フォーラム開催
 - 平成16年1月15日 講演会「世界に羽ばたけ！わが母校」開催
 - 平成16年4月～ 寄附講義「社会人との対話によるキャリア形成論」支援
6. 今後の予定
 - 平成16年10月17日 第3回名古屋大学全学同窓会総会開催
 - 平成16年秋 関西支部設立

全学同窓会組織図



Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y

■委員会の活動

事業委員会

事業委員会の仕事として、毎年4月入学の新入生の父兄に「同窓会活動協力金」という名目で3月の入学手続き来校時に一口5,000円以上の寄附をお願いした。昨年度は107万円、今年度は277.5万円（4月末現在）の寄附をいただいた。現役学生諸君に対しても、目に見える形で様々な支援活動を行っていく。

講演会「世界に羽ばたけ！わが母校—研究開発（R&D）と日本経済再生の経営課題」（依田直也氏）は大学の産学官連携推進本部との共催で実施したが、会場も一杯で参加者には大変好評であった。このような講演会の学生向き版を今後企画して実施したい。

平成15年12月1日には、経済学研究科主催、全学同窓会後援の講演会「経済学への期待」（ノーベル経済学賞受賞者、ケンブリッジ大学ジェームズ・マーリーズ教授）を豊田講堂で行った。名大のほか南山大、中京大の学生も参加して盛況であった。

本年の4月から「社会人との対話によるキャリア形成論」が教育学部を中心に、1、2年生を対象に開講しているが、意図するところは、学生と社会人との対話を通じて学生自身の将来に対する進路と目的意識を持たせ、真に社会に役立つ人材の育成に努めることである。これは大学の大きな役割の一つだが、同窓会としても支援していきたい。

そのほか、「名大祭」、「男声合唱団記念演奏会」の後援などを行った。前者は学生から、後者は同窓生からの支援要請によるものである。

全学の教員、職員、学生が協力して何かをおこなうことを支援するのは、同窓会の役割の一つと思う。そのほか、企業との協力、公的機関との提携作業など、文字通り産学官の連携のコーディネイト役こそ、同窓会の役目であると認識すべきである。

名古屋大学が真に中部地区の基幹大学として、全国的にも、また、世界的にもその存在が評価される優れた大学になるべく、全学同窓会への期待が各方面から求められていると思う。
(前委員長：水谷澄男)

名簿委員会

名古屋大学全学の名簿を、各部局同窓会と連携しながら、作成・更新・維持している。名簿なしでは、名古屋大学全学同窓会の活動は成立しないので、是非皆様のご協力をお願いしたい。

名古屋大学全学同窓会の役割は、学部・研究科内の同窓生を結合する、異なる学部・研究科の同窓生を結合する、名古屋大学と同窓生の間を結合する、名古屋大学と社会を結合する等です。このために、各部局間を横断する名簿が必要となる。今まで、各部局からの協力を得て、全学同窓会の名簿作成に務めてきた。この名簿では、新しく

1. 全学統一の項目を作成
2. 個人情報保護法に従い、個人情報保護のため、名簿の取り扱いに十分な注意を払う
3. ホームページ (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>) からの登録ができるようにしたことにより、自分の登録内容の確認と更新が容易にできる等の工夫をした。

現在は、文学部を除く全ての部局の同窓会名簿が登録されており、登録人数の総数は約10万人。文学部の名簿も間もなく登録される予定になっているので、全部局を網羅した名簿が整備されることになる。

名簿は既に名古屋大学全学同窓会からの連絡に活用されている。また、同窓会活動が、これから活発になるに連れて、益々その価値が上がることは疑いない。将来は、全学同窓会がE-mail addressを全ての同窓生に付与することも検討されている。今後ともご協力をお願いいたします。

(委員長：松浦民房)

広報委員会

広報委員会は名古屋大学全学同窓会の会員に対する窓として、また、大学と同窓会を結ぶパイプ役として、さらには、社会に対する大学と同窓会のPRの媒体として活動し

Y Y Y Y Y Y Y Y

ている。

年度あたり2回のニューズレターの発行と、ホームページを通して有益な情報を提供すべく努力していくつもりである。ホームページの充実に関して企画、名簿、事業の各委員会とも連携をとりながら、現在、議論を進めているところである。

会員各位からの身近な情報やご意見、ご希望等をお寄せいただきながら、よりよい広報活動を進めていきたいと、各位のご協力をお願いするしだいである。

(委員長代行：水谷集治)

連携委員会

連携委員会は、日本各地や諸外国において、各学部、学科単位で組織されている同窓会を、その地域ごとにとりまとめ、全学同窓会の「支部」を順次設立する活動を行っている。「支部」設立を契機に、これまでは地区同窓会がなかった学部、学科が新たに同窓会を結成されることを期待している。

これまでの「支部」設立活動としては、約15,000名の同窓生を擁する関東地区に、「名古屋大学全学同窓会関東支部」を設立し、平成15年3月26日に設立総会を学士会館にて開催し、約200名の関東地区同窓生のほか、松尾稔総長(当時)や全学同窓会本部からも3名の副会長が参加した。

関東支部長には、丹羽宇一郎伊藤忠商事社長(昭和37年法卒)を、事務局長には、片岡大造新和企業顧問(昭和37年法卒)を、また、各学部から幹事を選出した。

関西地区については、平成16年3月19日に関西支部設立準備会の会合を開催して、各部局から8名の方々が参加された。

その場で、連携委員会の活動趣旨に賛同いただいたので、今後、早急に「関西支部」設立に向けた活動を展開していく。

(前委員長：堀江通滋)

Y Y Y Y Y Y Y

■部局同窓会・同窓会支部の動き

情報文化学部・人間情報研究科同窓会

情報文化学部と人間情報学研究科は、平成15年12月20日(土)に設立総会を開催し、合同で「情報文化学部・人間情報学研究科同窓会」を設立した。設立総会には、卒業生、修了生と在校生があわせて60名ほど出席したほか、来賓として、人間情報学研究科の初代研究科長である横井英夫名誉教授に出席いただいた。活発な質疑応答を経て同窓会規約・細則が了承された。その後、伊藤正之総長補佐(元情報文化学部長)による「卒業生、在校生へ」というテーマの特別講演があった。

続いて、懇親会を開催し、卒業生、修了生には同窓生や恩師と親睦を深めていただいた。

平成16年3月におこなわれた同窓会設立後初の卒業式・終了式では、卒業・修了記念写真撮影をおこない、引き続き同窓会入会記念パーティ・謝恩会を開催した。

4月には、同窓会設立後初の入学式が行われた。その後で、新入生のウエルカムパーティも実施された。

(情報科学研究科：北栄輔)

キタン会(経済学部同窓会)

大学院経済学研究科附属国際経済動態研究センター(以



下、ERC)は、本学経済学部同窓会の社団法人キタン会と共同で、「名大ERC・キタン会名古屋ビジネスセミナー」を発足し、平成15年10月3日(金)、サイプレス・ガーデンホテルで第1回セミナーを開催した。

両者は、これまでも共同で国際シンポジウム等を開催してきたが、国立大学法人への移行という時代の流れを背景として、研究成果等の経済に関する情報の共有を通じて地域社会に貢献するために、同セミナーを開催することにしたものである。また、大学関係者に限定しないオープンな形式で開催し、これを将来的には産学官を含む総合的な地域ネットワークに発展させていく予定である。

セミナーでは、キタン会の松枝副会長と平川同センター長からセミナーの趣旨説明及び協力を呼びかけるあいさつがあり、続いて渡辺利夫拓殖大学国際開発学部長による「中国新体制の課題は何か」と題する講演が行われた。渡辺氏は、講演の中で、中国にとって最も重要な問題は、国有企業改革を進めることから生ずる都市部の失業増加と、農業の市場開放に伴う農村部の潜在失業の顕在化であり、これから2020年まで毎年7.2%の実質成長を続けることができたとしても、この圧力を現状程度にとどめるだけだと推定され、また、その実現も、容易なことではないと述べられた。

講演終了後、北原経済学研究科長より閉会のあいさつがあり、閉会後におこなわれたセミナー発足を祝う懇親会では、渡辺氏を中心に談笑の輪が広がるなど、盛況のうちに終了した。(キタン新聞より)

教育学部同窓会

本会はすでに教育学部自体とともに長い歴史を歩み、同時に大学院教育発達科学研究科の同窓会をも兼ねた活動を行ってきた。その具体的な活動として、創立以来の会員名簿の管理、毎年の役員会・総会の開催、年一回の通信の発行、最近のホームページの運営などがある。去る3月25日の学部卒業式・大学院終了式では、新たに88名の同窓生が入会した。

また、全学同窓会の立ち上げにあわせて、本会の活動をいっそう充実させるべく、6月5日には、役員会と総会で

同窓会会則案について審議し、年内にその成立をめざしている。引き続き、東海女子大学の長谷川博一氏による講演、「私の心理床～虐待、犯罪、……いわゆる「加害者」のひとの寄り添い～」が行われた。

(教育発達科学研究科：高木靖文)

工学部・工学研究科同窓会

平成15年7月7日評議員会が開催された。会長に杉野尚夫氏(土木、昭和40年卒、OASIS都市研究所代表、任期2年)を選出し、副会長2名、庶務2名、会計2名を選出した。平成14年度の事業・会計報告及び平成15年度の事業計画・予算を審議した。8月18日には、幹事会を開催して、工学部同窓会の中・長期的な運営方針等について、自由な意見交換を行った。同窓会活動の中で、今後インターネットの利用は不可欠であり、全ての学科・専攻のホームページにアクセスできるようにするために、工学部同窓会共通のサーバーの設置を検討することとした。

全学同窓会が設立され、その活動が始まっている中で、工学部同窓会は、どのような役割を担っていくべきか?また、大学から同窓会に何が期待されているのか?といった問題について、多くの意見を聞き、しっかりと議論してから、仕事を進めていく積もりである。(工学研究科：吉川典彦)

理学部・理学系研究科同窓会

理学同窓会は2002年4月20日の設立総会以後、満2年を迎えたばかりである。

この間常任法議員会を年に3回程度(通算6回)開催し、同窓会活動・運営のあり方を議論してきたが、具体的な活動内容を決めているわけではない。

しかしながら、理学部と同窓生との橋渡しとして、理学同窓会報を毎年発行(2度)している。この会報は、理学部・理学研究科広報誌(philosophia)と併せて同窓生に無料配布している。これによって、同窓会を設立したことの意義・認識が高まることを期待している。また、これら会報、広報誌の発送には、理学部同窓会名簿が有効に利用されている。なお、理学部同窓会では会費を徴収していないので、財政基盤が確立されていない状況である。

最近の動きとしては、1)理学同窓会報No.2の発行(2004年4月)、2)同窓会評議員会の開催(2004年4月25日)であり、1年間の活動報告と役員交代、変更が承認された。会長が山下廣順氏から大峯巖氏(理学部長・理学研究科長)に、また野依良治氏、山下廣順氏が顧問に就任された。

(多元数理科学研究科：三宅正武)

関東支部

1. 設立準備

関東地区在住の卒業生は約15,000名である。松尾前総長

と学会会藤理事長のお力添えにより学会館内に、名古屋大学東京連絡所が設置され、そこを関東支部の活動拠点としている。

2. 設立総会

平成15年3月26日、学会館において全学同窓会関東支部設立総会を開催した。出席者は松尾前総長、井口学会常務理事、名大教職員はじめ約200名。

関東支部長に伊藤忠商事丹羽社長、事務局長に新和企業片岡顧問が選出された。その後、松尾総長による講演があり、続いて、懇親会を行った。

3. 設立総会後

平成15年4月から毎月幹事会を開き、同窓会と大学の連携、特に産学連携について議論を重ねながら、具体的な活動に結び付けている。その成果は、別稿の東京フォーラム、名大における依田立正大学教授の講演会開催につながっている。

今後とも、産学連携活動支援を大きな柱として、活動を進めていきたい。(事務局長：片岡大造)

遠州会

名古屋大学遠州会は静岡県西部の名大全学同窓会として、平成8年に発足した。現在、会員は約500名で、隔年に総会、毎年1回、講演会または音楽会と懇親会を開催し、会報も出している。

平成15年5月17日には、第8回の懇親会を会員90名の出席のもとに、浜松名鉄ホテルにて開催した。会員の長谷川ヤマハ発動機会長の講演、全学同窓会の伊藤代表幹事のスピーチがあり、引き続きおこなわれた懇親会では学部を超えた交流で大いに盛り上がった。

全学同窓会の支部に認定され、平成15年11月に行われた全学同窓会総会には会長と主な役員が出席した。

本年6月12日に第4回総会と第9回懇親会を開催した。遠州地区在住または在勤の名大卒業生の入会、参加をお待ちしております。(事務局長：内山宏之)

〈連絡先〉

名古屋大学遠州会事務局

〒430-0836 静岡県浜松市福島町145

(Tel/Fax:053-425-0991 E-mail:hi-uchi@po3.across.or.jp)

Y Y Y Y Y Y Y

Y Y Y Y Y Y Y

ニュース

東京フォーラム開催

名古屋大学「東京フォーラム」が、平成15年12月17日(水)、東京の一橋記念講堂(学術総合センター)及び如水会館において開催されました。このフォーラムは、21世紀COEプログラムに本学から13拠点が採択されたのを機に、我が国の学術研究の差し迫った課題を広い視点から捉え直し、同時に産学連携の契機を関東地区において提供するために企画されたもので、当日は、予定定員を上回る850名の参加があり、本学の研究教育に対する関心と期待の高さを伺わせました。

第一部は、「学術研究と21世紀COE - 名古屋大学にお

ける基礎研究から応用研究まで」をテーマとし、松尾総長のあいさつに続いて、野依良治理化学研究所理事長(本学特任教授)が基調講演を行い、我が国の学術研究について見解を述べました。続いて行われたパネルディスカッションでは、松尾総長が進行役を務め、野依特任教授の他、黒田玲子東京大学大学院教授(総合科学技術会議議員)、末松安晴国立情報学研究所所長(21世紀COEプログラム委員)及び丹羽宇一郎伊藤忠商事株式会社社長(全学同窓会副会長・関東支部長)の4名のパネリストによって、大学における人材育成、企業から大学への期待などについて、



忌憚のない発言が活発に交わされ、会場の笑いを誘う場面もしばしばありました。

第一部の後半では、産学連携に関連の深い21世紀 COE プログラム4拠点によるプレゼンテーションが、拠点リーダーである水野猛生命農学研究科教授（「新世紀の食を担う植物バイオサイエンス」）、末永康仁情報科学研究科教授（「社会情報基盤のための音声・映像の知的統合」）、関一彦物質科学国際研究センター教授（「物質科学の拠点形成：分子機能の解明と創造」）及び三矢保永工学研究科教授（「情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス」）により行われました。また、展示コーナーでは、「名古屋大学のプロフィール」と題して、本学の歴史を振り返る写真、野依特

Y Y Y Y Y Y Y Y

■産学官連携推進本部との共催講演会

全学同窓会と産学官連携推進本部は、1月15日（木）、環境総合館レクチャーホールにおいて、本学卒業生の依田直也氏を講師に迎え、「世界に羽ばたけ！わが母校一研究開発（R&D）と日本経済再生の経営課題一」と題する講演会を開催しました。

全学同窓会は、平成14年10月に設立されて以来、大学と社会を結ぶ必須の組織を目指して活動しており、今回の講演会も産学連携を視野に入れて、産学官連携推進本部との共催により初めて開催したもので、当日は太田全学同窓会副会長（株式会社デンソー特別顧問・豊田紡織株式会社相談役）をはじめ、本学の卒業生、教職員及び学生等60名を超える参加がありました。

講師の依田氏は、昭和29年に本学の工学部を卒業し、東レ株式会社中央研究所に入社、その後、株式会社東レ経営研究所代表取締役社長を務められ、現在は、立正大学大学



任教授のノーベル化学賞受賞関連の資料、高等研究院の紹介及びキャンパス整備の様子展示があり、さらに、講演会場では、21世紀 COE プログラム13拠点の紹介ビデオも上映され、どちらも好評でした。

第二部は、隣りの如水会館に会場を移し、産学連携交流会が開催されました。同交流会では、先端技術関連と21世紀 COE プログラム13拠点の研究内容が、展示・実施され、大学院生や若手研究者も多数参加して、産業界からの出席者に本学の先端研究を紹介しました。また、出展ブースは、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、基礎の各分野をカバーする計33件でした。

（名大トピックスより）

Y Y Y Y Y Y Y Y

院経営学研究科教授として活躍されています。

講演会は、「メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパンへ」をキーワードに、大学の研究成果をいかにベンチャー・ビジネスに結びつけるかについて、米国やアジアの事例などを紹介しながら話が進み、依田氏は、日本経済再生には「大学の研究が原動力」になり、大学には「国際性豊かな優れた人材の育成」を期待したいと語られました。

最後に、後藤産学官連携推進本部長（副総長）から「大学に対して貴重な御意見をいただいた。今後も外部の声を聞かせていただき、本学の発展に役立てていきたい。」とあいさつがありました。

参加した卒業生の方からは、東山キャンパスの様変わりを感じられるとともに、母校に来るきっかけとなったことを喜ぶ声も聞かれました。（名大トピックスより）



■地下鉄「名古屋大学」駅、誕生

名古屋市営地下鉄名城線（4号線）の砂田橋—名古屋大学間（4.5キロ）が、平成15年12月13日（土）に開通した。これにより、本山経由での本学へのアクセス時間が大幅に短縮され、教職員や学生の通勤、通学が大変便利になった。

新たに、茶屋ヶ坂駅、自由ヶ丘駅ともに開業した「名古屋大学」駅は、全国でも珍しく、大学構内に設けられている。（写真）このため、名古屋市交通局と本学が協力して、大学構内の景観にあったデザインになるように配慮した。なお、残る「名古屋大学—新瑞橋」間は、平成16年10月6日開通の予定で、開通すれば、全国初の地下鉄環状線が実現する。（図）

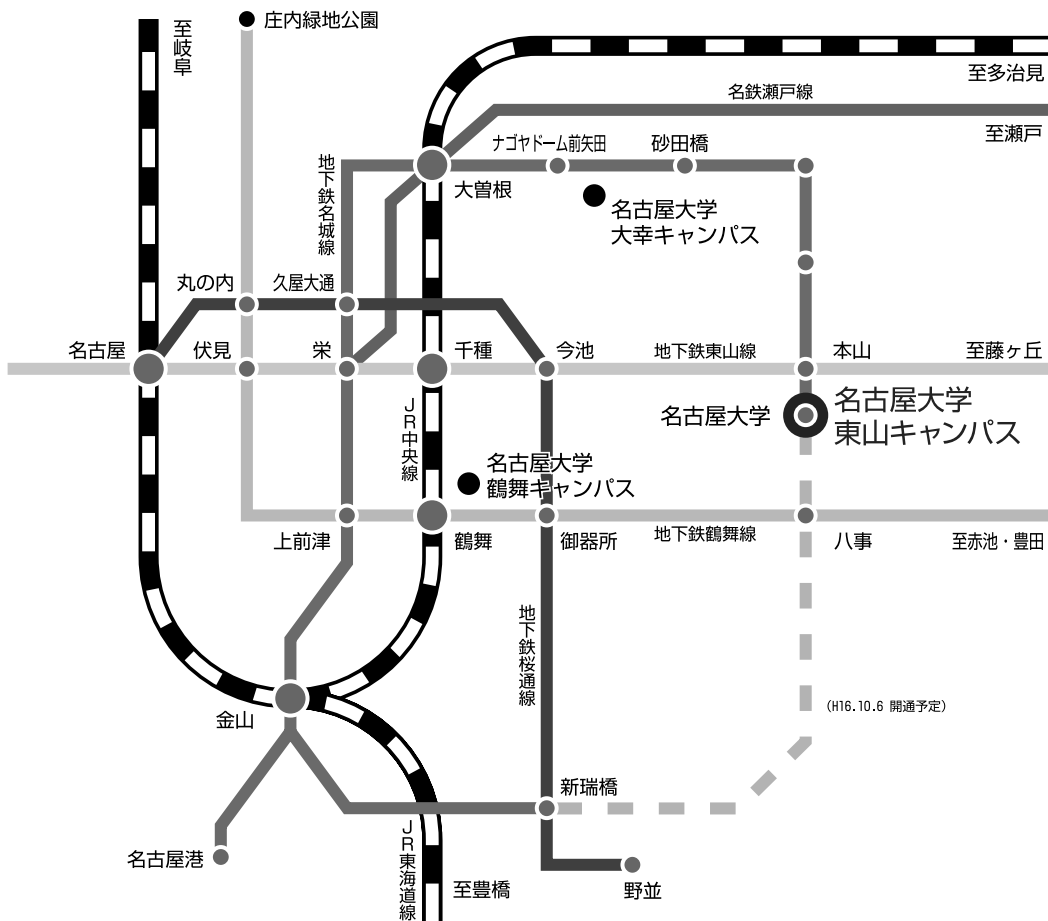
開通前日には、開業式典が名古屋大学駅で、祝賀会が本山駅で行われ、本学から、松尾前総長はじめ、伊藤前副総長、佐々木前副総長、中島前副総長等が出席し、開通を祝った。

また、当日及び翌14日の2日間、開通を記念したユリカ、切手及び本学消費生活協同組合（名大生協）とともに、企画広報室員が名古屋大学駅コンコースで、本学が実施する地下鉄開通記念イベントのチラシ（医工連携シンポジウム、学内展覧会 strange × familiar）、リーフレット、キャンパ

スマップ等を配布し、本学をアピールした。両日とも、多くの市民が同駅を訪れ、キャンパスマップを手に取り、大学構内を散策する姿も見られた。

さらに、地下鉄開通により、多くの市民が本学を訪れることが予想されるため、広報プラザ内に置かれていた「名古屋大学総合案内所」は守衛所を一部改装して開設した。

（名大トピックスより抜粋）



■大学の新しい建物紹介

名古屋大学東山キャンパスに5棟の研究施設が誕生した。それらは「野依記念物質科学研究館」、「野依記念学術交流館」、「理学館」、「高等総合研究館」、および「IB電子

情報館」である。名古屋大学の象徴的存在であると同時に、法人化と機を一にして、学術研究の高度化、国際化、研究水準の高揚を推し進める力となることが期待される。



Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y

編集後記

ニューズレター No.3は全学同窓会の全会員に配布されるということで、少し発行準備に時間を要しました。ニューズレターをはじめて手にされる方にも、全学同窓会の現状を理解いただけるような内容としたつもりですが、その分、少し固い内容になったかも知れません。

まず4月からスタートした「国立大学法人名古屋大学」について、それが目指すところを、平野新総長に語っていただきました。これを機に、大学と全学同窓会が以前に増して連携を密にし活動することが求められると思います。

全学同窓会は設立後3年目を迎えます。いよいよ本格的な活動が期待されるところです。既に産学官連携活動については、それが始まっていますが、他大学の例などをみますと、さらに格段の努力が必要であることを痛感します。

部局同窓会、支部同窓会の活動が活発になってきました。それらが結集して全学同窓会の力となり、卒業生・修了生および教職員相互の交流、親睦を深めるだけでなく、大学が優れた知識と人材を育成し、それらを社会において役立

つもとにするための活動を支援していくことが強く求められるのです。

あらためて全学同窓会の活動に多くの会員の理解と協力が必要となってまいります。活動拠点の設立、各種のネットワーク作りなど、まさに「会員の、会員による、会員のための全学同窓会」にするためにも、皆さんの力強く、継続的な支援を心からお願いするしだいです。

名古屋市営地下鉄「名古屋大学」駅が開業し、大学へのアクセスがずいぶん楽になりました。会員の方々が気軽に訪ねてこられることをお待ちしております。また、ホームページについては、会員に対するよきサービスができ、会員との双方向的な「窓」としての役割が果たせるよう、その充実に努力してまいりたいと考えています。どうぞ気軽にアクセスして、ご意見、ご提案などをお寄せください。

(全学同窓会特別補佐：水谷集治)

名古屋大学全学同窓会ニューズレター No.3

平成16年6月30日発行

発行人 全学同窓会代表幹事：伊藤義人

編集 名古屋大学全学同窓会広報委員会（委員長代行：水谷集治）

連絡先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学全学同窓会事務局

Tel/Fax: 052-783-1920 E-mail: nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ :http://www.nual.nagoya-u.ac.jp